

会 議 録

1 会議名	第5期南砺市協働のまちづくり推進会議 第5回全体会
2 議題	1. 開会 委員長あいさつ 2. 話題提起 市民参画／情報共有の実施状況について 推進会議において議論したいテーマについて 南砺市協働のまちづくり推進会議において必要な部会（案）について 3. 部会の制定について 4. 閉会 副委員長あいさつ
3 開催日時	令和5年3月13日（月） 開会時間：午後7時／閉会時間：午後9時
4 開催場所	井波コミュニティプラザ「アスモ」大会議室
5 出席者	[委員：全20名] ※50音順、敬称略 出席：荒木 信人、磯辺 文雄、上坂 紀子、江田 攻、齊藤 優華、 坂本 博昭、佐竹 弘昭、嶋田 早苗、俵 圭子、竹部 俊恵、 塚八 栄治、能登 貴史、長谷川 邦子、林 則雄、松本 久介、 南 眞司、藪 英雄、渡辺 洋子 欠席：長田 正勝、中山 明美 [市：出席3名] 事務局 南砺で暮らしません課長 船藤 統嗣 南砺で暮らしません課 協働のまちづくり係長 山下 真人 " " 主事 得能 基史
6 傍聴者	0名
7 内容及び 決定事項	内容 ・任期前半の振り返り ・南砺市協働のまちづくり推進会議において議論すべき内容及びそれに対応する部会案についての意見交換 決定事項 ・部会案を事務局で集約し、次回の推進会議において提案する

7 会議録	<p>1. 開会 委員長あいさつ</p> <p>林委員長 本日からマスクが自己判断となり、いよいよ正常な生活に戻りつつあると感じている。第5期南砺市協働のまちづくり推進会議は任期開始から1年経過した。1年目は研修や全体での会議を実施してきた。残る1年は、市長への提言を目標として、専門的な部会を立ち上げて議論を深めていければと考えている。できれば、本日の会議において部会の形式やそれぞれの進め方まで決めたいと考えている。</p> <p>2. 話題提起</p> <p>市民参画／情報共有の実施状況について 事務局より説明</p> <p>A委員 パブリックコメントを募集することはいいことだと思う。ただ、市のホームページを毎日見る市民はあまりいないと思うので、ただ載せてあるだけでは足りないと思う。もっと、プッシュ型の情報共有をしてほしい。</p> <p>事務局 市のホームページは市のLINEやフェイスブックに連携できる仕組みとなっているので、関心がある市民に届くような仕組み作りを検討したい。</p> <p>B委員 会議の公開と非公開のパーセンテージはどのようになっているのか。また、市のモニタリングは受け身になっているのではないか。</p> <p>事務局 情報共有のチャンネルを増やすことが大切だと思う。現在は地域づくり協議会で活用を進めている結ネットとホームページの連携をしたい。</p> <p>C委員 市民の意見を聞くことはまちづくりにとって大事なことである。市民参画や意見の募集についてあり方を検討したい。</p> <p>事務局 ぜひ、専門部会において議論いただきたい。</p> <p>D委員 市民参画についても、ぜひ部会化して市長への提言につなげてほしい。</p>
-------	---

推進会議において議論したいテーマについて

南砺市協働のまちづくり推進会議において必要な部会（案）について

3. 部会の制定について

事務局より説明

B委員

南砺市協働のまちづくり推進会議の位置づけの確認及び「南砺市市民と行政のまちづくり活動モニタリング部会」について解説

E委員

南砺市まちづくり基本条例が制定された頃は関心度が高く、注目もされていたが、地域づくり協議会の役員が変わるごとに理解が薄れてきているように思う。条例がマンネリ化してきていると感じる。地域づくり協議会合同研修会として「まちづくり基本条例を読み解く会」を開催したい。

A委員

いい取り組みがと思うので、「広報部会」につながるのではないかな。

C委員

地域で行っている実証実験の目的がわからない。実証実験を企画するような会議等での傍聴も少ない。実証実験がうまくいかなかったということについて、何がうまくいかなかったのかも公表されないまま次の実証実験へ向かっている気がする。

B委員

実証実験をやる場合に計画がしっかりしていない場合が多いと思う。計画の適性を見極めることが大切ではないかと考える。

C委員

相手（市民）に伝わっているかどうか大切だと思う。計画が出ているが、市民が知らないだけかもしれないが。

B委員

市は情報公開をしているだけでは不十分である。市民に伝わっているかどうか大切である

D委員

資料の中で、実証実験がうまく作用していないことに「地域づくり協議会」が、これは一緒にしない方がいいのではないかな。

F委員

実証実験の具体例は何か。

G委員

井波地域のデマンドバスの実証実験である。実証実験の前に KPI を示すべきだったかもしれない。今回は1日当たり何人の実績があり、それが多

いのか少ないのかという指標を設けることが大切だろうと思う。

H委員

私は担当課に、失敗したものをまた開始しようとしていることを抗議した。それをチェックするシステムがないことが問題である。

F委員

この件は市の予算が関わる話なので、市議会が審査することである。我々南砺市協働のまちづくり推進会議は住民自治が主題であり、市の政策ひとつひとつを議論することは、この会議の趣旨とは異なると思う。

H委員

総合計画をはじめ市の計画は過去の焼き直しを繰り返しているが、時代はそれよりもはるかに速いスピードで変わっており、人口も計画よりもはるかに早いスピードで減っている。計画の作り方から抜本的に変えるような提案をしていかなければならない。

G委員

工業製品でいうところの「型落ち」になっている計画がいくつもある。我々は個々で見ると、広い目で現状と計画を照らし合わせて議論すべきではないか。

I委員

地域づくり協議会の問題に特化した部会を提案した。現在、私の地域では集落（地区）と地域づくり協議会がうまく連携していない。まちづくり推進会議と地域づくり協議会が補完しあう関係になっていない。地域での各種行政委員の委嘱についてもよくわからない。うまくいっていないことを検証したい。

G委員

今までの意見を集約すると、ビジョンづくりに関わる部会という認識になるのではないか。

J委員

次世代の育成が課題と感じている。地域で活躍している方は、仕事を終えた方という認識である。現役世代はPTAなどで役を任されてもせいぜい数年なので、継続性のある意見は出にくい。31地域があり、小さい地域は子育て世代も参加しているのでうまくいっているように感じる。大きな地域は人口が多いので、うまく回っているように見えるだけだと思う。

H委員

病院改革について、パブリックコメントがないことに驚いた。もっと行政も周知してほしい。意見の集め方も時間軸、聞くべき人を間違えている。

委員の中で、南砺市まちづくり基本条例と地域づくり協議会の関係を勘違いされている方もおられる。小規模多機能自治は条例の目指すものを実現するための手段のひとつである。条例は市役所と市民が市をよくするためのもので、地域づくり協議会は地域のためにあるものである。南砺市まちづくり基本条例と地域づくり協議会は役割が異なるものであり、推進会

議で議論するものではないように思う。

F 委員

地域課題は無関心が一番の原因である。団体自治は自ら^{みずから}治める、住民自治は^{おのずから}治まるものである。ひとりひとりが考えて自然に治まるものである。現在は、課題は全て行政や専門家のせいで、自分のせいではないという雰囲気がまん延している。特に我々の世代は寛容性もない。多様性も認めない。若い世代が南砺市から出ていくのは当たり前である。

ただ、南砺市は小規模多機能自治を始めたことで少しずつ変わってきている。隣の家なのか町内会なのか地域づくり協議会なのかわからないが、「気づくこと」が一番である。

K 委員

南砺市まちづくり基本条例がそれら「気づき」の火付け役ととらえればいいと考えられているのか。

F 委員

そのようにとらえても問題ないと思う。その役割を担うのが地域づくり協議会なのかはわからないが、前に進んでいると思う。

K 委員

最近「ちょっと話を聞きに行く」ことを知らない人が多いように思う。人口減少に立ち向かわずに、南砺市全体が諦めている雰囲気を感じる。子供が高校を出て南砺市に戻ってこないことについて、親もあきらめているように感じる。ふるさと教育もとキャリア教育がつながっていない。

とにかく集まって話してみることが大事であり、場を作っていくことが大事である。アンケートももちろん大事で機能しているが、直接会いに行って情報を取りに行くことが大事である。

B 委員

市議会議員にも、南砺市まちづくり基本条例への理解について聞きに行くべきではないかと思う。

I 委員

意見をまとめて上程するような目的ではなく、円卓会議のような、市民が情報交換する機会を作ることがとても大切だと思う。

L 委員

私は井波地域づくり協議会で公民館活動を引き継いでいる部会のお世話をしている。今は子どもたちがいないのが悩みである。単独で子ども行事が成り立たない町内会に対して、地域づくり協議会が主体となって郷土愛を育むような事業、楽しい思い出ができるような行事をやりたいと思っている。地引網体験などを実施した。それを踏まえて次世代育成部会を提言した。

H委員

パブリックコメントではなく、地域に向いての説明をする機会が大切である。地域づくり協議会という受け皿ができたので、市は説明に行かなければならない。

M委員

市と住民と地域づくり協議会事務局の連携は大事だが、どのようにすればいいのかというところで悩んでいる。最近、小学生も入った話し合い促進事業をして気づいたことがたくさんある。50年先を見た議論が必要だと思った。

N委員

小学校の社会科の先生の前でまちづくり推進会議の話をした。それぞれのいいところは話し合うが、悪いところは話さないのが共通認識できないし、広まらないことが課題だと感じている。

D委員

今日いただいた意見を集約して、次回の会議の前にまたアンケートを委員の皆さまに投げかけたい。どのように進めていくか、また検討して提案したい。

4. 閉会 副委員長あいさつ

齊藤副委員長

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。条例が自分ごとにならないという課題を感じた。地域内で共感しあって、自ずから治まるための機会が必要である。さきほどの子どもの活動を聞いて「言ってくれば一緒にやるのに」思うこともあるが、要はお互いの活動が届いていないのだと感じた。自分ごとになれば自然と意見が出て、集まるものだと思う。もう一年しっかりと取り組んでいきたい。